

学校法人 加寿美学園 坪井幼稚園
平成29年度自己評価についての報告

平成30年7月26日
坪井幼稚園

はじめに

坪井幼稚園における自己評価シートをもとに、平成29年度の実情を分析した結果を以下の通り報告する。

1. 園の教育目標について

人権尊重の教育を基調とし、豊かな心をもった心身ともに健康でたくましい幼児の育成をめざす。

- 意欲・関心のある子ども
 - 身近な環境（自然・社会）に、積極的にかかわり、それを生活に取り入れていこうとする幼児。
 - 五感と全身を十分に使った、学びと遊びを通しての喜び、満足、充実を感じる幼児。
 - 困難に負けず、最後までやりぬく幼児。
 - 感じたこと、考えたことを表現する感性・意欲をもつ幼児。
- よく考えて行動する子ども（態度）
 - 自ら健康で安全な生活をつくりだし（自立心）、友だちと親しみ支え合って生活する（連帯感）幼児。
 - 言葉で経験を表現し、言葉で理解しようとする幼児。
 - 落ち着いて人の話を聞いたり、話したりしようとする幼児。
 - 自分で考えてものごとじょうにじっくり取り組む幼児。
- 心の豊かな子ども
 - 豊かな感性・創造性を持ち、素直に表現する幼児。
 - 友だちとの生活や遊びのなかで、自分を表現し、相手も受け入れ認め合おうとする幼児。
 - 自分らしさを発揮し、自信をもって生き生きと生活する幼児。

2. 平成29年度 自己評価取り組み目標とねらい

自己評価の取り組みによって、客観的に教師としての姿勢や園の教育目標に合った教育内容になっているのか等の見直しや自己反省を行い、自らの課題を設定し教師としての質を高めるための手立てとしたい。

3. 評価項目に対する取り組み状況

評価項目	取り組み状況
1、保育の計画性	本園の教育目標に従い、子どもを真ん中に据えた教育課程を編成するとともに、新教育要領の理解に努め教育課程の編成にあたっている。子どもの実態に合わせた行事の見直し、工夫を行うなど検討を重ねてきた。子どもの姿を捉えるために、記録を記入し振り返りや、今後の取り組みに備え役立つよう工夫を重ねる。

<p>2、保育のあり方・子どもへの対応</p>	<p>園の特色を生かした指導方法は、行事活動後の反省、課題を見つけ、新たな取り組みが実行できるように、職員一丸になって対応を行った。朝の登園時は、職員が正門の前で子どもを受け入れ、挨拶や子どもの健康観察に力を入れた。また、各職員からの連絡・報告を徹底した。保護者とのコミュニケーションを図ることで、信頼関係を築き、より良い関係作りを大切に行った。子どもの安全については常に危機意識をもつよう心掛け、安心して園生活が送れるよう配慮や点検を行った。個別指導が必要な子どもの対し、ケース検討会を実施し、全職員で子どもの良さ困り感などを多面的にとらえ共通理解し、指導を行う事ができている。異年齢の交流ができるよう保育形態を工夫している。</p>
<p>3、保育者としての能力や良識・適正</p>	<p>全職員が専門職としての知識を広げ対応できるように園内研修や、園外研修に取り組んでいる。(県や市の専門講座・研修大会、全国大会など幅広い分野の学びを身に付けることが出来た。)園内研修では救急法や発達支援について外部講師を招き学び、教育に活かした。組織として、報告・連絡・相談を重視し行うことができた。保育後の保育の反省・気づき等を伝え、相談できる職員間を築けるように信頼関係を大切にした。また、会議を通して意見を出しあえる環境作り、教師の共通理解の資質向上に努めた。</p>
<p>4、保護者への対応</p>	<p>家庭との連携を図るための情報の提供をより密にし、(クラス懇談会や個人面談)を行い、子どもの園での様子、家庭の様子など情報交換する。園での様子はクラスだより・園だより・“つぼいっこ”・預かりだより等で知らせ、保護者が参加できない行事については、DVDで撮影し、視聴できるようにしている。教師は、明るい笑顔を中心掛け、保護者の気持ちに寄り添うことで信頼を得られるよう努力している。年間に1度専門家による子育て相談(希望者)を行った。父親に子育てに参加して、子どもとの触れ合いを楽しめるように、育メン幼稚園を行った。保護者会組織の支援もいただきながら、子どもの成長に寄与する土壌が出来ている。年長児とその保護者を対象に外部講師を招いて見知らぬ人の講習会を行う。</p>

<p>5、地域の自然や社会との関わり</p>	<p>地域のふれあい農園での種植えや収穫・畑作り・地域の行事への参加など、一年を通して地域の方々とのふれあいがあった。週一回、園外保育に出かけながら、交通安全への意識を高め、季節の変化に気付くと同時に季節の自然に親しみながら工夫して遊ぶ姿があった。園での活動の場所等を紹介し、家庭と地域とのつながりを大切にする。小学校との連携では、授業参観に出席し意見交換を行い、年長児と小学生との交流ができた。就園前の親子を対象に園庭や保育室を解放し、子育て支援活動を行う。</p>
<p>6、研修と研究</p>	<p>研修会や研究会に参加し学んだことを資料にまとめ、職員会議などにおいて報告し合い、共有化を図っている。また、年齢別のケース検討会を学期ごとに実施し、多方面から園児を捉え、園児の肯定感が育つような取り組みにした。幼児の発達を捉えるためにも、研修を定期的に行うとともに、日々の子どもの姿について話し合う機会を持つ。外部講師を招き、園内研修の充実を図る。</p>
<p>7、教育内容</p>	<p>幼稚園の教育目標に従い、教育課程を編成・実施している。子どもの発達や実態に応じた内容になるよう計画し、ねらい、指導方法・配慮点などについて活動後の反省を行なってよりよい教育を目指している。園の特色の一つに泥んこ教育では、子どもが充実した遊びが楽しめるよう赤土や砂場の整備・道具の配置など環境面の配慮もおこなった。食育は地域の方々の協力を得ながら、季節の食材を使って教育活動につなげる。園の教育目標を達成するためには安全を第一に考え、園外に出掛ける場合は、天気・温度・環境汚染濃度・職員の数と配置・交通状況を考慮した。異年齢の関わりができるよう縦割り遊ぶ日を設定する。年中・年長が参加するお泊り会を行い、園外で経験や自立行動が自信となる事ができた。教師は人的環境であることを自覚し、子どもたちの心の育ちに寄与できるよう、研鑽を積んでいる。</p>
<p>8、地域の幼児教育センターとしての役割</p>	<p>保護者対象の相談会を実施し、専門家による助言を貰えたことが、保護者の安心につながっている。支援センターに通級している幼児に対し、訪問や観察・意見交換会などを行いながら、目標や支援方法を統一し行う。意見交換会等を行うことで園と専門機関とのつながりも出来ている。未就園児保育体験を行ない、保護者の悩みや相談に応えるなど、地域の子育て支援としての役割も果たせた。</p>
<p>9、安全管理</p>	<p>不審者情報が携帯電話に入るように設定する。不審者の侵入防止の為、門扉に鍵をかけている。危機管理マニュアルを作成し職員に徹底すると同時に備品を整備し・管理している。出入りの多い時間帯は職員が門に立ち園児の安全に配慮している。</p>

	また、全園児対象に、交通安全教育・水難事故教育・火災地震・防犯訓練等を実施した。学校保健安全法に規定して、薬剤師による定期的に環境衛生検査点検を行い環境衛生の維持・改善を図っている。
10. 財務管理	公認会計士より適正に処理されているとの報告を受けている。

4. 総合的な評価結果

自己評価を実施することで、教職員が自分の保育を見直す機会となった。自己分析を行い指導法や教育内容を見直し反省が、職員一人ひとりの成長に繋がり、自己評価表が更に活かされるよう取り組んでいきたい。職員間で意見交換を密に行い、共通理解や実践教育の向上に努めたい。環境面では学校薬剤師による安全点検を行い維持・改善を行うことができた。園舎の点検・遊具の点検・動物の衛生管理・害虫駆除等を定期的に行うことができた。園舎は掃除を丁寧に行い、季節の花や遊びが広がる草花を植えることで温かみのある環境整備を心掛け安心・安全に過ごすことができています。子育て支援として預かり保育では、少人数や異年齢の中で、充実した遊びが保障し、過ごせるよう配慮できた。教育内容を充実させるため、教職員の資質向上に努め、職員集団のチームワーク作りに関して、保護者からも高い評価をいただくことができた。園の教育を継続、発展させていくためにも、切磋琢磨し、努力を更に続けていく必要がある。

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
情報公開の方法	ホームページの充実 学校関係者評価委員会の組織作り。
自己点検、自己評価	園内、園外研修の充実・自己評価の意義徹底・職員の心身健康保持と増進

6. 学校関係者評価委員会の意見

本園は学校関係者評価委員会を設けていないため意見は聞けなかった。